

発 言 通 告 書

発言者氏名	鈴木真智子
発言の会議	平成31年 2月26日 本会議
発言の種類	質疑、一般質問、緊急質問、討論、その他
質疑等の方式	一括、一問一答
答弁を求める者	市長、教育長

【件名及び発言の要旨】

1 予算編成について

- (1) 予算規模の拡大に対する市長の感想及び新年度予算にかける心意気について
- (2) 市債残高が前年度から増加することに対する市長の所見について
- (3) 財政健全化に対する市長の決意について
- (4) 市職員の定数に対する市長のスタンス及び新年度の職員数増加の理由について

2 うわまち病院の建てかえについて

- (1) 地域住民を交えた協議会等を立ち上げ、うわまち病院跡地の活性化策、跡地利用の検討状況を可視化する必要性について
- (2) 同病院移転後の看護学校のあり方について
- (3) 高精度放射線治療棟及び新病棟・南館の今後の活用に対する検討内容について

- (4) 同病院移転地において、新病院建設と一体的に道路幅員の拡幅を整備検討する必要性について
- (5) 同病院移転地である神明公園の桜の木を保存してほしいとの要望に対する市長の所見について

3 公立保育園再編実施計画の見直しについて

- (1) 公立保育園再編実施計画策定時から、こども園に関わる背景が変化しているため、同計画を見直す必要性について
- (2) 同計画見直しに伴い、北・南のこども園のあり方を再度検討する必要性について
- (3) 民間でできることは民間に任せ、市は行政でなければできないことに集中する必要性について

4 消費税対策について

- (1) 軽減税率に対する市長の認識について
- (2) プレミアム付商品券の円滑な発行及び実施に向けた対応について
 - ア 同商品券の購入対象人数、購入対象者への周知方法、購入方法及び購入場所について
 - イ 同商品券の金額単位、販売開始時期及び利用期間について
 - ウ 事業者の意見及び商工会議所との連携を図りながら同商品券の取り扱い店舗をふやす取り組みを行う必要性について

5 子育て・教育支援について

- (1) 子育て支援について
 - ア ゼロから2歳児の現在の認可保育所利用人数について
 - イ ゼロから2歳児における「国」及び「市独自」の無償化対象

人数について

ウ 保育料無償化において「現物給付」に切りかえ、子育て世帯の負担軽減を図る必要性について

(2) 待機児童対策について

ア 2歳児保育を幼稚園に委託する際、同園が安全かつスムーズに移行できるように研修、体制整備及び開設補助金等を検討する必要性について

(3) 保育士不足の状況について

ア 保育士確保に対する市長の意気込みについて

イ 若い世代を呼び込む施策と連動し、保育士確保施策として家賃補助制度を検討する必要性について

(4) 学力向上の取り組みについて

ア 横須賀子ども学力向上プロジェクトの推進による学力向上の検証の状況及び同プロジェクトの目標値について

イ よこすか土曜寺子屋教室事業の効果検証方法について

ウ 横須賀子ども学力向上プロジェクトにおいて土曜寺子屋教室等、効果検証が不明確な事業を見直す必要性について

(5) 医療的ケア児のインクルーシブ教育の推進について

ア 特別支援学校に加え小中学校にも看護師を配置し、医療的ケア児が地域の学校で安全に学べる選択肢をふやす必要性について

イ 医療的ケアが必要な児童が安心して学校に通えるよう、学校でも訪問看護を利用可能とすることについて

ウ 学校において医療的ケアを実施するため、医療機関、消防・学校等が連携できる体制の構築及び学校生活における指針の明確化及び研修の充実を行い、教員・看護師・親が連携して適切に対応できるようにする必要性について

(6) 教育現場におけるICT環境の整備について

- ア 市立ろう学校へのデジタルサイネージの早期配備について
- イ 市立小学校・中学校・ろう学校・養護学校への電子黒板及びデジタル教科書等の導入の早期実現について
- ウ 教育研究所のよこすか教育ネットワークサーバ群のデータセンターへの移設について

6 人と地域が輝く共生社会について

(1) 地域福祉全般について

- ア さまざまな人が集い合える多世代拠点となるような、例えば「みんなの食堂」を地域につくっていく取り組みの推進について
- イ 地域による支え合い活動への支援に係る柔軟な補助金のあり方について

(2) がん対策について

- ア 年齢による段階的な胃がんリスク検診について
 - (ア) 20歳、30歳で胃がんリスク検診を実施することについて
- イ がん検診の強化について
 - (ア) 特定健診とがん検診の同時受診により、がん検診の受診率を向上させることについて
 - (イ) がん検診受診率向上のために受診券にオプトアウトを導入することについて
- ウ 医療用かつらに対する助成制度について
 - (ア) がん患者の社会的自立を支援するための医療用かつら助成制度創設について
- エ がん教育について
 - (ア) がん教育に対する教育長の考えについて
 - (イ) 追浜中学校や衣笠中学校等で試行実施されたがん教育に

対する教育長の評価について

- (ウ) ピロリ菌検査及び除菌の公費助成対象である中学校2年生に対し事業実施の意義と重要性を周知することが重要とのことに対する市長及び教育長の見解について
 - (エ) 試行実施されたがん教育の事業効果を検証した上で全中学校で計画的に同教育の実施検討を行うべきということに対する教育長の所見について
- (3) 児童養護施設退所後の単立ち支援について
- ア 親を頼れない子どもたちの自立支援を社会が担っていくことの重要性に対する市長の所見について
 - イ 施設退所者のための生活相談、就労支援等、さまざまな支援策を検討する必要性について
- (4) ひきこもり対策について
- ア 本市におけるひきこもりの実態把握方法について
 - イ ひきこもり対策における本市の体制及び対応方法について
 - ウ 中高年世代のひきこもり問題に対応するための相談体制整備について
- (5) 高齢者施策全般について
- ア 高齢者福祉に対する市長の思いとスタンスについて
 - イ 市営住宅の高齢化対策について
 - (ア) 外壁塗装や住居内設備における先回りした長寿命化への取り組みの必要性について
 - (イ) 市営住宅の老朽化・高齢化対策を計画を立て実行し、対応可能な部分から取り組む必要性について
- (6) 認知症になっても個性と尊厳を保てる社会について
- ア 認知症対策について
 - (ア) 認知症初期集中支援チームの事業効果の検証結果について

- (イ) 同チームへの相談に係る窓口の明確化及び周知について
 - (ウ) 若年性認知症の支援体制について
 - (エ) 同認知症の相談窓口のある久里浜医療センターを周知する必要性について
- イ 認知症サポーターについて
- (ア) 認知症サポーターの活用と研修のあり方について
 - (イ) 横浜市西区が行っている認知症の人が来店したときの対応をまとめた「お店版認知症ガイド」のような取り組みを本市でも検討することについて
- (7) 共生社会のキーマン、民生委員・児童委員について
- ア 「横須賀市民生委員児童委員活動のためのQ&A集」の周知方法について
 - イ Q&A集の活用を図るための研修会の実施について
 - ウ Q&A集に基づく行政側の具体的なサポート体制について
 - エ 福祉部が前面に立って民生委員推薦会地区準備会に出席し、地域の声を把握した上で地域の負担軽減策を検討する必要性について
- (8) 市役所改革について
- ア 市職員の人材育成について
 - (ア) 本市における「目指すべき職員像」及び「そのために求められる能力」について
 - (イ) 町内会や地域貢献活動団体における活動状況を考慮した上で給与や昇進に生かす人事評価制度構築の必要性について
 - (ウ) 職員が公僕として地域社会を支える中核的な存在となることを人材育成方針に位置づけることについて
 - イ 市役所の業務効率化について
 - (ア) R P Aを市役所内の業務に積極的に導入することについて

て

7 防災・減災対策について

(1) 防災・減災について

- ア さまざまな情報が発信されていたにもかかわらず、避難行動につながらなかったことにより甚大な被害をもたらした岡山県真備町の事例に係る市長の認識について
- イ 防災・減災を政治の中心に位置づけるとともに、ハザードマップの住民理解等、防災教育を含めて社会の主流に押し上げていく重要性について

(2) 災害時における食料備蓄品の活用について

- ア フードドライブを運営している福祉部において災害備蓄品を活用することについて

(3) 液体ミルクの備蓄について

- ア 災害備蓄品として粉ミルクとともに液体ミルクを検討することについて
- イ 賞味期限の短い液体ミルクを効率的に活用するため、流通事業者との災害協定のメニューに同ミルクを追加することについて

(4) 防災・減災のための学校施設設備について

- ア 熱中症対策及び災害時避難所における活用のため、小中学校体育館へ大型サーキュレーターを設置することについて
- イ 学校内トイレの計画的な洋式化推進について

(5) 市営住宅の一時入居について

- ア 災害時の一時入居住宅設備の課題及び必要最低限の設備整備の必要性について

8 観光立市へ向けた「新たな文化の創造」について

- (1) ソレイユの丘の集客力向上のための新たな事業展開について
 - ア ソレイユの丘が三浦半島の一大テーマパークとしてさらに魅力ある施設となるための課題について
 - イ ソレイユの丘の魅力度・集客力向上のため、若い世代を取り込む魅力ある機能及び仕掛けづくり構築の必要性について
 - ウ 他施設における若い世代の取り込み成功事例を参考にして、ソレイユの丘のさらなる集客力向上施策に取り組む必要性について
- (2) 「歴史・文化・平和」をコンセプトとした中央公園の再整備について
 - ア 遺構等の埋没の可能性が指摘されている中央公園内の調査実施の必要性及び調査結果次第で新たな遺構として保存・活用を検討することについて
 - イ 「歴史・文化・平和」をコンセプトに中央公園をリニューアルする必要性について